

石清水八幡宮駅周辺まちづくりシンポジウム

市民ワークショップ参加者

近畿大学総合社会学部 社会学科教授 水辺のまち 再生プロジェクト事務局
大谷大学社会学部 コミュニティデザイン学科 講師

赤木 文也 氏 上田 安希子 氏 川田 翔子 市長 田中 晃代 氏 野村 実 氏 笹尾 和宏 氏



まちの話題

このページでは、市民の皆さんの活躍やまちの話題などを紹介しています。身近な話題や、広報紙についての意見を、秘書広報課までお寄せください。

グランドデザイン

「感じる千年の歴史、未来照らす八幡」

3月14日、石清水八幡宮駅周辺まちづくりシンポジウムを文化センターで開催し、約100人が参加しました。

今回のシンポジウムは、駅周辺の将来像を示すグランドデザインの公表や講演等を通じて、市の玄関口にふさわしいビジョンを参加者と共有することを目的に開催されました。

はじめに昨年開催したワークショップの参加者2人が登壇し、計2回

の内容を総括した後、川田市長が駅周辺を4つのエリアに分けたグランドデザインを公表しました。

講演では、水辺のまち再生プロジェクト事務局の笹尾和宏氏が、水辺や公園など開かれた場所でもちを楽しみ、過ごしている活動の事例を紹介していただき、「一人ひとりが変わることでもちが変わる」と市民参加の重要性を主張。

最後の討論会ではワークショップ参加者2人、笹尾氏、各分野の有識者2人に川田市長を交えた6人が登壇。近畿大学総合社会学部教授の田中晃代氏は「まずは楽しく実験的に」、大谷大学社会学部コミュニティデザイン学科講師の野村実氏は「市民が考え、市が伴走していったら」と話しました。

また、会場には3つのグランドデ

コンセプト案の投票をする参加者の様子



ザインのコンセプト案が掲示され、参加者による投票も実施。参加者は自身が思う駅周辺の目指すべき姿を想像しながら、投票していました。

終演後の挨拶をするやわた人形劇連絡会



人形劇で放生川が舞台の昔話

生涯学習センターで4公演

3月15日、生涯学習センターふれあいホールで第32回やわた人形劇まつりが開催。人形劇団の力作に参加者延べ187人から笑いと拍手が起きました。

5つの人形劇団で構成する「やわた人形劇連絡会」との共催で、地域の子もたちに人形劇の面白さを知ってもらおうと毎年開催。今年も堺、寝屋川、枚方で活動する人形劇団も参加し、計4公演が行われました。

同連絡会の演目は、男山の麓を

流れる放生川を舞台とした昔話「鯉ものがたり」。病床に伏す母親を助けようと、掟を破ってまで奔走する息子との愛を描いた作品を表現力豊かに上演。ほかの演目では、人形の掛け合いやユーモラスな動きに会場は笑顔であふれていました。

第32回やわた人形劇まつり企画委員長の重永智恵美さんは「子どもたちが一喜一憂する様子が見られるのが嬉しい。長く続けていきたい」と笑顔で話しました。



大なわとびに挑戦する子どもたち

大なわとび 27チーム約300人が競う

2025 YAWATA子どもスポーツフェスティバル

2月28日に、八幡市民体育館で2025 YAWATA子どもスポーツフェスティバル「大なわとび大会」が開催されました。

本イベントは、子どもたちにスポーツの楽しさや仲間と力を合わせてプレイすることを体験してもらうことが目的。市内在住の小学生を中心に1チーム10人で構成された27チーム約300人が、3分間で連続して跳んだ回数を競いました。

小さな子をサポートしながら跳躍するチーム、選手と2階の応援席が一体となって大声で跳躍数を数えるチーム、失敗しても励ましながら回数を伸ばすチームなど、回し手と息を合わせながら制限時間まで懸命に跳躍。終了の笛とともに会場からは大きな拍手が送られ、「楽しかった」「よくやった」と参加者同士の絆を深めた1日となりました。

今月のこの人

第九回 徒然草エッセイ大賞 小学生の部大賞を受賞



市が「決心」をテーマに募集した「第九回徒然草エッセイ大賞」で、小学生の部大賞を受賞。橋本小学校6年生。

岩城光一さん

「まさか受賞すると思わなくてびっくりした」と受賞の喜びを話すのは、橋本小学校6年生の岩城光一さん。

小学3年生から祖父が管理する家庭菜園を手伝い始めた岩城さん。「家の菜園で厳選した種苗を栽培する中で、発芽を喜び、遅く生長する植物の姿に感銘を受けた」といいます。そんな自然界の動植物を見

て、自身も肩の力が抜けて自由に動けるようになった経験を作品にしたためたところ、生物の営みを眺め、現在の境遇に抗うことに気づいた経験を上手く文章にまとめた点が評価され、小学生の部で大賞を受賞しました。

読書にも親しむ岩城さんは「きっかけは各地の城を家族と訪れる中で、誰が築城したのかを調べたこと。2回読む方が細

かく理解できる」と、再読の魅力を語ります。

将来は「農業の技術者になりたい。害虫や悪天候に負けない新しい技術を生み出したい」と、小さな家庭菜園から見つけた大きな夢を大切に育てています。

本コーナーでは、市にゆかりのある人物や団体を紹介しています。詳しくは、市ホームページまたは秘書広報課へ。